

氏名（本籍）	今永 典秀（愛知県）
学位の種類	博士（工学）
学位授与番号	乙第81号
学位授与日付	令和3年3月25日
専攻	工学専攻
学位論文題目	若者と地域企業の協働において地域イノベーションを生み出す「場」 （“Place” creates regional innovation through collaboration between young people and local companies）
学位論文審査委員	（主査）教授 倉内 文孝 （副査）教授 高木 朗義 准教授 出村 嘉史

### 論文内容の要旨

地域創生・地域活性化の取り組みが注目され、技術革新、情報技術の進化により「働き方」が大きく変化し、フリーランスやパラレルキャリアと呼ばれる新しい働き方が浸透し始めている。また、地域・まちづくりには多様な主体が関与し、多様なアクターによるセクターを超えた協働が盛んに行われ、協働・共創の「場」が重要になっている。そのような中で、社会変化に対応して、企業や個人が変化することが求められており、新たなイノベーションの創発が期待されている。

本研究では大学・学生、地域企業、個人などのアクターが協働し、地域イノベーションを創発する「場」の要素を明らかにすることを目的として、アクションラーニング、および事例調査研究によって、地域の中小企業、地域の大学・学生がイノベーションを生み出す「場」の要素を検討した。具体的には、市民活動団体が大学所有の地域連携スペースを利用した活動や、企業が主導する企業外の関係者が参加する対話の場が、イノベーションの創出に寄与することについて、多様な主体が交わる仕組み、対話の機会により仲間が生まれること、そこからアイデアが発現する形成プロセス、継続方法を明らかにした。

本研究で得られた主な知見は以下の通りである。

1. 地域の若者・地域の企業がイノベーションを実現する「場」に関して、空間、目的、コンセプト・雰囲気、運営・維持、引力、連続性・継続性の6つの要素の重要性を明らかにした。
2. 市民活動団体が大学所有の地域連携スペースを利用した活動や、企業が主導する企業外の関係者が参加する対話の場がイノベーションの創出に寄与することについて、多様な主体が交わる仕組み、対話の機会により仲間が生まれること、そこからアイデアが発現する形成プロセス、継続方法を明らかにした。
3. ICTを活用したクラウドファンディングという新たな「場」の活用を通じて、分業体制が確立した伝統的な地場産業においても、新商品開発や新たな販路拡大に向けたイノベティブな活動が実現可能になることを明らかにした。
4. 大学・高等学校が地域のアクターと連携した協働教育を通じて、金融機関や地域企業、大学や高等学校教育におけるそれぞれのメリットを双方で享受するために必要な「場」のデザインやそのプロセスにおいて、段階的に関係者を増やしていくことやそれらをコーディネートする人材の重要性を明らかにした。

## 論文審査結果の要旨

本論文は、地域の異なるアクターが連携・協働し、地域の価値創出に向けた取り組みのメカニズムに着目し、大学および高等学校と産業界が連携した協働教育の仕組み、異なるアクターが集う対話の場やプラットフォームの役割・機能について、研究者自身が実践者・当事者として事象に関与しながら探究するというアクション・リサーチにより獲得した「場」を中心とした知見をまとめたものであり、その社会的意義は大きい。また、関連する既往研究と比較しても、地域イノベーションを生み出す「場」に関して、空間、目的、コンセプト・雰囲気、運営・維持、引力、連続性・継続性の6つの要素の重要性を明らかにした点は学術的に十分な新規性があり、今後益々求められるオープンイノベーションに対して、実務上での活用が期待される。このように、学術上、実務上ともに寄与するところが少なくないと考えられ、今後、実用上の展開が大きく期待されるものといえる。

## 最終試験結果の要旨

学位論文審査委員会では、論文博士（乙）の工学専攻に求められている「学術誌に5編以上。そのうち3編以上が学位論文の内容を構成していること。」を満たしていることを確認した上で、令和3年2月4日に上記審査申請者に対して最終試験を行った結果、本申請者は十分に学位授与に値するものであり、合格と判定した。

---

発表論文（論文名、著者、掲載誌名、巻号、ページ）

1. アクセラレーターと協働するオープンイノベーションについて、今永典秀，組織学会大会論文集，6(1)，pp.144-149.
2. キャリア開発におけるボランティア団体による社会イノベーション：-NAGOYA×FOREVERの事例より-，今永典秀，グローバルビジネスジャーナル 4(1)，pp.15-24.
3. 大学のパブリックスペースにおける新たな地域連携のあり方：名城大学社会連携ゾーン shake における NAGOYA×FOREVER の事例より，今永典秀，21世紀社会デザイン研究学会学会誌，9，pp.24-34.
4. 未来のワークプレイスに向けた企業主体の「共創空間」の形成プロセス—株式会社オカムラ中部支社「OPEN Innovation Biotope “Cue”」の事例より，今永典秀，日本マーケティング学会カンファレンス プロシーディングス(9)，pp.181-188.
5. 地場産業におけるクラウドファンディングの活用効果，今永典秀，日本中小企業学会論集，39，pp.185-198.
6. 地場産業の事業承継者によるクラウドファンディングを活用した取り組み，今永典秀，組織学会大会論文集，7(2)，pp.332-337.